

家政学部建築・デザイン学科3年生による

ワークショップ型演習「建築&デザイン総合演習」による神保町を舞台とした地域連携プロジェクト

建築&デザイン総合演習とは？

家政学部建築・デザイン学科の建築コース・デザインコースの2コース、建築分野・インテリア分野・まちづくり分野・グラフィック分野・プロダクト分野の5分野の学部3年生が垣根を越えて、横断的に繋ぐチームを編成し、互いに競い合いながら、「空間」と「モノ」を対象として、リアルな社会課題に対して提案を行い、作品を制作するのがこの演習です。よって学科の全教員が指導にあたります。

産学連携の課題だけでなく、毎年「神保町を元気にする」をテーマに、各チームで神保町を調査し、必要な空間・機能・モノを抽出し具体的な空間とそこで必要な家具やサイン等をトータルに計画し、創造・提案することを行っております。

毎年、最終講評会には地元の方々をお招きして様々なご意見をいただいております。今年度は共立祭との合同開催とし、神保町や千代田区関係者はもちろんのこと、高校生や保護者の方々などで会場は大盛況でした。

今年度は「じんぼうちょうの住処（すみか）計画」と題した、すずらん通りにじんぼうちょうと学生たちが、家をまちに開く「いえ開き」をするという前提のもとにすずらん通りの敷地を用いて、原則、1階がじんぼうちょうの活動場所（まちとの接点）、2階以上には神保町とじんぼうちょうを愛する人たち（学生）が住むシェアハウスを計画します。

この演習課題は夏季集中講義であり、夏休み最後の1週間でアウトプットまで作成するという非常にハードなスケジュールにも負けず、学生たちは作業を行ってきました。



じんぼうちょうのすみか計画

香神堂

KOU SHIN DOU



このチームは神保町において何度もフィールドワークを重ね、計画対象となる敷地がすずらん通りの賑やかさと裏通りのひっそりとした感じの物理的な二面性を持つことに着目し、「神保町を知って欲しい！神保町を盛り上げたい！」という地元への愛着をどのような機能で表現すべきかを考えました。その提案がこの「香神堂」です。ネーミングも何となく神々しい感じがしますが、「観光客と若者をターゲットにし、神保町の特色であるカレーというコンテンツを活かした観光案内所」となっています。「観光案内所にスパイス、効かせました」がこのスペースのキャッチコピーです。建物の概要としては、1~2階が観光案内所、3~5階が観光案内所の運営に関わる共立生のシェアハウスとなっています。



▲ショップカード



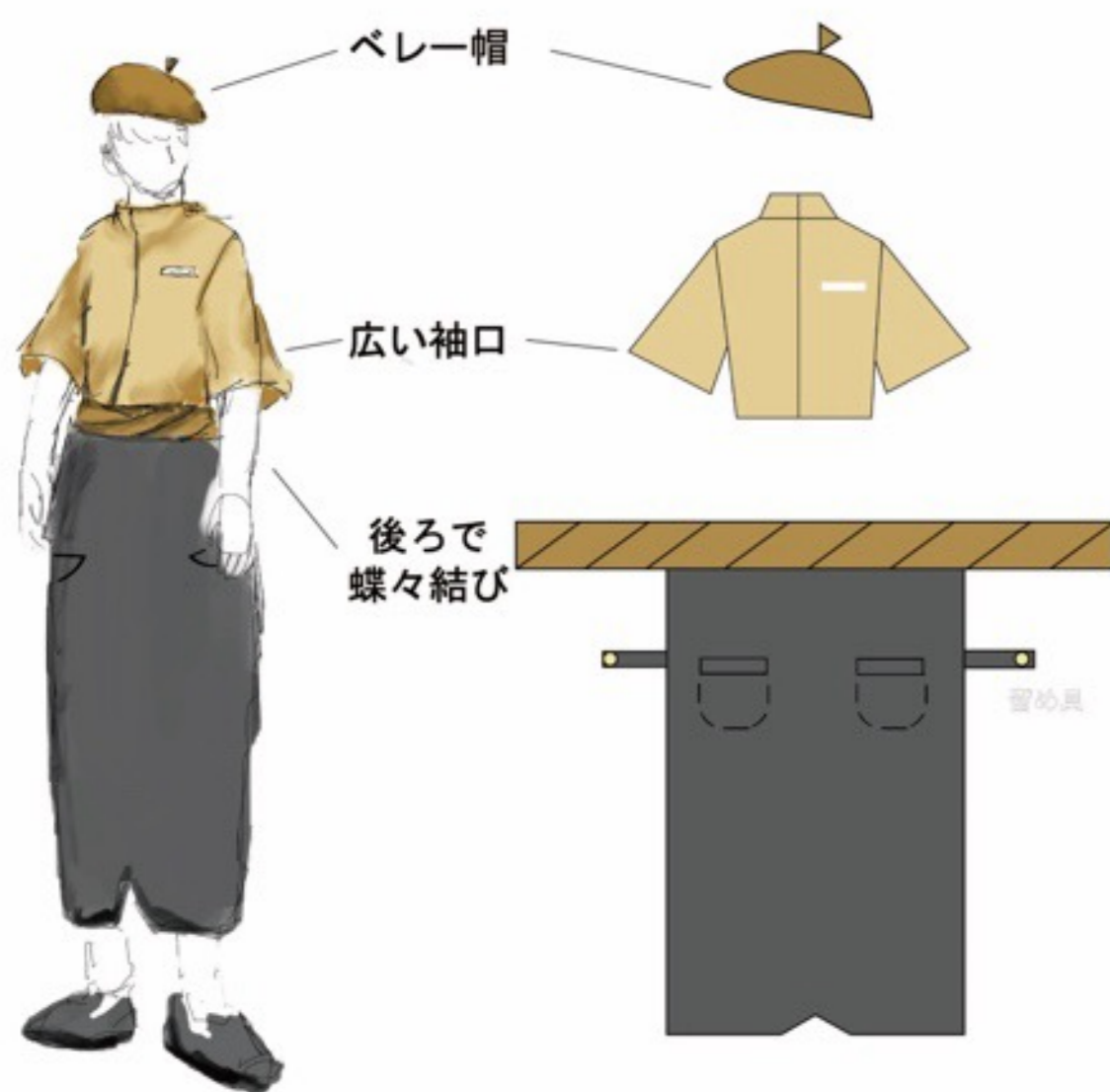
▲1階 スパイス棚



▲オリジナルスパイス



▲2階 スパイス体験



▲ユニフォームデザイン



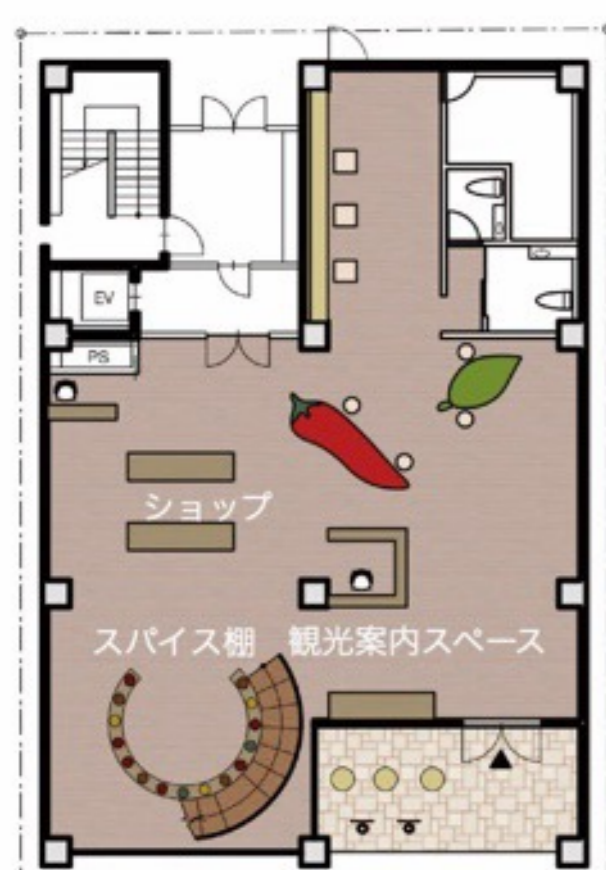
▲観光案内所のキーアイテムでもある「唐辛子」が散りばめられたショッパー



南北断面図



東西断面図



1階平面図



2階平面図



3階平面図



4階平面図



5階平面図



屋上階平面図